

文芸OGネットワーク通信



Vol. 9

〒101-8437 東京都千代田区一ツ橋 2-2-1
文芸OGネットワーク 代表 脇田 静子
発行：2008. 7. 19

共立女子大学文芸メディア研究室内
Tel/Fax 03-3237-2681
URL www.kyoritsu-wu.ac.jp/bungei

高尾駅北口に集合し、少し歩いてスクールバスに乗り込み、約 10 分。窓外に広がる青々とした田園風景に胸躍らせながら到着。バスをおりると八王子事務室担当室長の中川正氏が笑顔で迎えて下さり、1号館1階の会議室で1時間ほど八王子校舎の沿革や少子化に伴う諸々の問題、当世学生気質などお話しいただき、午後からはキャンパスを案内していただきました。



都心では到底望めない美しいバラ園は現在もお専門の業者に手入れを依頼し、色とりどりの大輪咲きが見事でした。近隣の幼稚園児、またお年寄りなども見物に見えるそうです。豊かな自然に囲まれたキャンパスは春には枝垂れ桜、染井吉野、八重桜が華やかに咲き乱れ、秋にもまたバラが咲き、その頃には紅葉もきれいで四季折々の自然を満

八王子キャンパス探訪

関東地方の梅雨入り翌日6月3日に一柳やすか先生とOGネットワークの役員9名で、雨の中八王子キャンパスに出かけました。

喫できます。1号館屋上へ上がると見事な眺望に、皆思わず歓声をあげました。かつて鳩山薫先生が車で通りかかれたとき「この地を共立のキャンパスに」と決断されたと伺ったことがありますが、私も4年間の大学生活の1年でもこのような恵まれた環境で過ごしてみたかったと強く感じました。

昭和61年に完成した図書館はとても明るく、神田とほぼ同じ冊数が保管されています。神田図書館とネットで結ばれているため、学生が必要な図書は、神田・八王子間を週2回往復している定期

便で図書を移し利用できる仕組みになっています。1500人収容できる講堂も築20年以上とは思えない程きれいで、共立女子第二中学・高等学校の行事、また周辺中学校の合唱コンクール等も行われます。国際文化学部校舎近くの桜の木に赤くかわいらしい実が生っていたのが印象的でした。

今回ご一緒して下さった一

柳先生は、八王子キャンパス設立当初から学生達を指導なさり、キャンパス事情に精通していらっしゃる貴重な存在で、施設見学をしながらお話をうかがうことができ幸いでした。

学生達が買い物に便利で、文化的な催事も多く、人々で賑わう都心に魅了されるのも時代の流れで仕方のないことなのかもしれませんが、個人的には、自然に恵まれ勉学には理想的とも思える八王子キャンパスに大学生が来てから28年後の昨年3月をもって全員神田に移ったことが残念でなりません。

帰りのバスで、この地が再び元気な学生で溢れる日を願いながら豊かな自然を満喫した一日でした。最後に、今回お世話くださった中川氏に感謝いたします。

(稲見和子 昭和49年卒)



文芸OGネットワーク

平成20年度総会開催

日時：5月24日（土）

総会・昼食・懇談 11：00～

文芸サロン講座 13：30～

場所：本館 303号室

会費：1000円（文芸サロン講座聴講）

ネットワーク代表・脇田静子氏から組織としての継続のため、会員一同力を合わせて取り組みもうとの挨拶があり、議題に入った。



まず、平成19年度の活動経過報告が各部署からなされた。

会報：発行済みの会報の内容について。

資料整理：現在大まかな整理が終わり、小さい劇団の整理などに当たっていること。

共立祭：展示の部屋が4階で、人の流れが多かったこと、また若い学生たちとの共同使用もあり、盛況であったこと。

文芸サロン講座：第4回、第5回の講座について。

Web：更新の状況。メールを送ることもできるので、閲覧してほしいとのこと。

次に平成19年度の収支報告が会計よりなされ、会計監査から、了承した旨報告があった。

今後の活動予定について、資料整理はデジタル化を本年度から始める予定、会報は年2回発行の予定、サロン講座は年1回を予定しており、共立祭は参加の予定で立案中などの報告が各担当者からあり、会計

からは予算案の提示があり了承された。

大学とのつながりを持って

らおうとの趣旨の一環として、冊子「研究ファイル」を、会報と一緒に会員の皆さんに送付する案が了承された。

また、最後に下村氏より、学部のこと、八王子キャンパスから神田に学生が移ってきたことによるさまざまな影響などを中心に、共立女子大学文芸学部の近況報告があり、平成20年度の総会は無事終了した。

総会の後、午後1時30分から同じ会場で、文芸サロン講座が開かれた。

平成19年度決算

(単位:円)

◎ 収入の部		予算	決算	増減	備考
1	平成18年度繰越金	1,160,240	1,160,240	0	
2	平成19年度会費	400,000	382,000	△18,000	前受金含む
3	雑収入	50,000	211,413	161,413	※
合計		1,610,240	1,753,653		

※ 総会会費、共立祭バザー、サロン講座会費、寄付、利子等

(単位:円)

◎ 支出の部		予算	決算	増減	備考
1	行事費	150,000	118,086	31,914	サロン講座、共立祭
2	会報・広報費	50,000	31,303	18,697	会報・広報、用紙
3	事務費	50,000	25,481	24,519	用紙、コピー、事務用品
4	会議費	50,000	46,284	3,716	お茶代他
5	什器費	200,000	137,800	18,000	パソコン購入
6	通信費	120,000	91,000	18,000	郵送料
7	渉外費	10,000	13,849	△3,849	用務員等謝礼
8	劇芸術資料整理	50,000	0		
9	予備費	930,240	0		
10	次年度繰越金		※1,289,850		
合計		1,610,240	1,753,653		

※ 19年度繰越金：1,289,850円（普通預金〔郵便局〕：1,264,704円、現金：25,146円）

上記の通り相違ありません。

会計監査 江川 優香里 印
仙葉 弘子 印

平成20年度予算

(単位:円)

収入		支出		
費目	金額	費目	内容	金額
19年度繰越金	1,289,850	行事費	共立祭、サロン講座	150,000
20年度会費	400,000	会報・広報費	会報・広報年2回発行	50,000
雑収入	50,000	事務費	用紙・コピー代等	50,000
		会議費	総会、その他	50,000
		通信費	郵送料他	120,000
		渉外費	用務員謝礼	10,000
		劇芸術資料整理	交通費補助	50,000
		什器費		0
		予備費		1,259,850
合計	1,739,850	合計		1,739,850

ドキュメンタリー映画の現場

講師 山本起也氏

*山本起也氏プロフィール

1966年静岡生まれ 中央大学卒業
京都造形芸術大学准教授
ドキュメンタリー映画監督
作品 「ジム」(2001年)
「ツヒノスミカ」(2008年)



講師の山本起也氏は、フィルムカメラをまわしてドキュメンタ

リー映画を撮り続けている若き監督である。フィルムカメラを使って映画を作ることは気の遠くなるような手間とお金のかかる手仕事である。ネガからポジにおこしワンカット毎に確かめながら仮編集をする。別に音声をとったテープレコーダーからシネテープをたちあげフィルムと合わせていく。世界に1本しかないテープを切っては繋ぎ、切っては繋いでいく緊張の連続。それにくらべて現在主流となっているデジタルカメラでの制作は、操作も

簡単、フィルム費用も安いとあってボツにしてもいいカットも存分に撮ることができる。余裕がある反面、安直に流れやすい。

中古の16ミリフィルムカメラをまわして、ボクサーを夢見る若者たちを追いかけたドキュメンタリー映画「ジム」を撮りはじめたのは27歳の時。しかしこの制作は監督にとっても時間とお金との壮絶な闘いであったようだ。時間との闘いとは、100フィートフィルムしか装填できないカメラで勝負すること。2分47秒でなにが撮れるか、撮れないか...お金は1回の撮影で20万、30万飛んでいったと言う。そこまでしてフィルム撮影を続けるのはなぜなのか。フィルムのもつ独特の色と質感へのこだわりも当然あるが、様々なリスクや制約は逆にある種

の枷となって演出家の姿勢を決め、何を描くかというテーマそのものにも深く関わっているのだ、と山本氏は言われる。



監督自身の祖母の家が取り壊されるまでのひと夏を描いた「ツヒノスミカ」は、2008年度国際ドキュメンタリー映画祭(スペイン)で、800本以上のなかから選ばれ最優秀監督賞に輝いた。時代遅れとも言われるフィルムカメラをかかえて被写体に対峙する監督の姿が清々しい。

講座を聴いて

ドキュメンタリー映画の話というので、制作に関する苦労話等を想像していたのですが、最初からそれは違っていました。NHK等でときたま見る番組、あれがドキュメンタリーであろうと考えていたものが、公の番組として放送する以上、すでに日程、時間等が決められているので、内容を操作しなくては番組としてなりたない現実があること、必ずしも全ての番組が真実のことを

あるがままに映しているのではなく、作り手の作為と思惟によって現実の場面を借りながら、作り手のイメージに基づいて出来た作品だということ、そのことをまず思い知らされました。

山本氏は、カメラで撮っている以上まったくの真実ではありえないけれど、絶えず撮り手と被写体とが、キャッチボールの様にコミュニケーションを交わしながら(それでも場合によっては完成した後に被写体との考え方の違いで関係が気

まずくなることもある)、物理的な制約(費用等)の多いフィルム撮影を続けている事(フィルムとビデオの違いも知らないことでした)、最初から、こんな作品にしようという、それこそ思惟による結末のイメージを作らず、とり続けているうちに、映画として成り立つところが見えてくる事、場合によっては見えないかもしれない、そういった先の見えない恐怖があるからこそその緊張感等を、わかりやすく熱心に語っていただきました。

(川瀬治子 昭和52年卒)

オリエント急行の旅 みちこ 山本 起子

る幸せを感じているように感じた。まさに「ディライト」

「オリエント急行」と言う人多くの人がアガサ・クリスティの推理小説を思い起こすでしょう。夢の豪華列車とも言われます。



イスタンブール、シルケジ駅歓迎セレモニー。印象に残っている曲などが演奏された。

2006年9月、主人の退職記念として、30年来の夢をかなえるべく、1年に1回特別運行される「オリエント急行5泊6日の旅」(イスタンブール～ブカレスト～ブダペスト～ベニス)に出発しました。1年前の予約、ドレスコードに沿った荷物の準備など身軽な旅とは異なる点多々ありました。出発地イスタンブール・シルケジ駅では乗客のために特別待合室が設けられ、ホームにはレッドカーペットが敷かれています。そしてトルコ軍楽隊が勇壮な行進曲などを演奏するなか列車は静かにホームを離れていきます。乗客の大半は中高年のカップルで、数十年の時を共に過ごし、今ここに

と言う言葉がふさわしいと思いました。5泊のうち車中3泊、ホテル2泊(ブカレストとブダペスト)。これは車中にバス・シャワーの設備がないためです。居住性では日本の夜行列車カシオペアなどの方が優れているかもしれません。しかしこの列車のもつ西欧文化の歴史と伝統に人々は心魅かれるのだと思います。旅の途中立ち寄ったブカレストではチャウセスク政権下の負の遺産を、「東欧の真珠」と呼ばれるブダペストではハプスブルク家繁栄の名残を感じつつ、アジアからヨーロッパを走りぬけた6日間でした。

乗客の半分はアメリカ人で、他に英仏独から数組ずつ、日本からは私達2人



スコットランド出身キャビンスチュワード。日本に行きたいと。

ですが、キャビンスチュワードの明瞭な英語と日々の予定を知らせる日本語のパンフレットのお陰で快適な旅を楽しむことができました。

(昭和42年卒)

掲示板

◎ 共立祭

10月18日(土)、19日(日)開催の共立祭に、文芸OGネットワークは今年も展示、バザーで参加します。共立祭の総合テーマは「彩」。OGネットの会場は本館407号室に決まりました。バザーへのご寄付をお願いします。

◎ お知らせ

文芸サロン講座に講師としてお迎えした山本起也氏の作品『ツヒノスミカ』がDVDで市販されました。この作品を観たいとの希望が多く、機会を見て上映会を開催する予定です。

◎ 文芸サロン講座から

今後の講座の講師、企画、テーマ等に関してご希望、ご意見、ご推薦がありましたら、ぜひお寄せください。

編集後記

★総会をはじめ、催事の場合は大学の校舎を借りるなど、文芸OGネットの活動は大学と深くかかわっている。それだけに、大学の現状には関心のあるところ。

★今号で取り上げた八王子キャンパス探訪は、大学の現状をほんの少し知るよい機会であった。(酒)

演劇資料整理事上り

1年間で100,500円。これが昨年度資料整理に協力して下さったメンバーにお支払いした交通費の合計である。平成19年4月から20年3月まで41日間のべにして335名の方が参加して下さった。平均すると1日8名の方が火曜日の午後、大学院研究棟551号室に足を運んでくださ

たことになる。足代は1日300円。これをまとめて年1回支給すると、1万円を超える方もでてきてちょっと喜ばれる。しかし、まとめることで小額を偽装しているようで、少々後ろめたい。

一昨年より総合文化研究所よりこの資料研究に助成金が下りており、その中からOGネットに謝礼と

してなにがしかの金額をいただいている。その内訳は週1日2人のアルバイトを3時間雇うというもの。時給は950円。これが1年間ままとすると昨年は205,200円となった。当初はOGネットの会計予算から交通費を出していただいていたので、この助成金はありがたい。残金は将来のためにためておくつもりである。